HQ
104
J74

Mar 1
1889
no. 15

女學雜誌

一冊六錢

當府内無郵税

版權所有

各土曜日出版

明治廿二年(第百五拾參號)三月十六日發

社説

女流小説家の本色

論説

婦人の王國(平岩恒保)○飲食物の説附酒と煙草の害(其六)(津田仙)

批評

九鬼君演説の大旨

叢話

日本社會の空氣(中島俊子)○先進の人は大山の如し○小供の育て方(加藤照麿)○三條香三の政治○人を笑わせる仕方

佳傳

破鏈談第五回(彌よ別れて益す近〜)

小説

理想の紳士第七回(月の舍しのぶ)

寄書

築けよ建よの歌(佐々木豐壽子)○外數首

新報

小式部内侍○錦繪の嗜好○和歌將來の目的○衛生の極意○潑澹たる、バトナ事件○不許治郎爲市長○中山慶子○產婆夜學校○其他數件

外報

印度公會の議決○米國女醫公會○不德文書案○不德文書取押へ○其他數件

小供談

幸福を求むる種々ある事(其二)

附録

婚姻説○女子讀本

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 153. MARCH 16TH, 1889.

EDITORIAL:— Novels as thy ought to be.

LEADING ARTICLES:— The Women's Kingdom. by Mr. T. Hiraiwa. Food and Drink. (Tobacco and Alcohol). by Mr. S. Tsuda.

CRITICAL NOTES:— Mr. T. Kuki's Speech summarized.

MISCELLANIES:— "Predominant Atmosphere in Japanese Society." by Mrs. T. Nakashima. "How to bring up the Children." Sancho Panza's Government. The Art of Ridicule.

BIOGRAPHIES:— "Breaking the Fetters."

NOVELS:— "The Ideal Beau."

CORRESPONDENCES.

GENERAL NEWS.

CHILDREN'S COLUMN.

女學雜誌は日本の女性を代表す、日本の女性は女學雜誌の如くあり、亦如くなるべし、亦如くならざる可らず。日本の女性を知らんと欲せば女學雜誌を見よ、之に愛せられんと欲せば女學雜誌に愛せられよ。女學雜誌は日本婦人の分身にして、亦た其の敎師、案內者、相談相手たるなり。

●珊瑚の珠

一儀禮曰婦人有三從之義無專一之道故未嫁從父既嫁從夫夫死從長子故父者子之天也夫者妻之天也女は幼より老年に至る迄三從の義ありと云て自我まゝに專らと行ふとはあきあり何とにても其主とする所に從ふて其人につくを婦の道とするなりいまだ嫁せざる室女の時は父に從ふ也すでに嫁しては夫に從ふなり嫁の字女の家とかく婦の字も又とつくとよむ女は夫を家として歸る心なり夫死したる時は長子に從ふ是を三從といふ也此故に父は子の天道夫は妻の天道なり此天道にそむき外に天道ありとおもふはひがとなり。(賢昔故事)

一橫川惠心僧都の妹安養の尼のもとに强盜入にけり物ども皆とりて出にければ尼うへは紙ふすまといふ物を引着て居られたりけるに姉なる尼のもとに小尼君とて有けるがはしり參て見ければ小袖をひとつとりおこしたりけるを取て是をぬす人とり落して侍けるを奉るとて持て來りければ尼上のいはれけるは是もとりて後は我物とこそ思ひつらめぬしの心ゆるさゞらむ物をばいかゞ來ける盜人はいまだ遠くはよもゆかじとり〳〵持ておはしまして取せ玉へと有ければ門の方へ走り出てやゝとよびかへしてこれを落されにけり慥に奉らんといひければ盜人ども立とまりてしばしあんじたるけしきにてあしくも參りにけるとて取たりける物共をもさながら返しおきて歸りにけりとなん。(古今著聞集)

女學雜誌
第百五十三號
明治二十二年三月十六日發兌

社説

○女流小説家の本色。

湘煙女史(中島俊子)先づ「善悪の岐」を著はし、花圃女史(田邊龍子)次に「藪の鶯」を著はし、秋月女史(大島千代子)都の花に於て「許嫁の縁」を作り、曙女史(岡本榮子)讀賣新聞に於て「婦女の鑑」を編み、竹栢園女史(佐々木昌子)亦た都の花に於て「胸の思」を綴り、湘煙女史再たび「山間の名花」を同じく都の花に掲げたり。其他草稿既に脱落して將に飛揚翺翔せんとするものには、佐々木光子の「赤子の一心」「松の歎息」「果敢なき埋火」等あり、正に草稿中にして追て成んとする者亦尠らず、現に腹案中にして今や煩悶として將に產れんとする者亦更に尠なからず、戀々として先輩を慕ひ先彼布を着て早く小説家たらんずる女學生特に尤も多し。ジョン、ロルド云く、若し十五世紀を以て繪畫の時代なりと云ふとを得ば、十九世紀は即はち小説の時代なりと、蓋し然らん、如此く吾人も亦た近代を評して云はなん、若し明治十四年十月國會開設の詔の降る以前を政論の時代なりと云ふとを得ば、二十二年二月憲法の發布せらるゝ以前は即はち小説の時代なりと。見よ、矢野龍溪君の經國美談を作るや、恰かもスカットが初巻「ウエーバレー」を作りたる如く、坪内逍遙君が書生氣質を著はすや、殆んどザッカレーが「ヴワニテー、フヘア」を著わしたるが如し、之よりして國中の第二流文學者は靡然として皆な小説家たらんと發心したり、此を以て爾來小説書類の出現したると實に數ふるに堪へず、或は反譯せられたるもの、或は翻案せられたるもの、或は一夜作りにせられたるもの、或は非常の苦心に成りて而して左程にもあきもの、政談の草稿めきたるもの、演説の筆記めきたるもの、牢屋に行くもの、温泉に遊ぶもの、學校の評判記の如きもの、生徒の日記帳の如きもの、及び才子佳人の目出度婚結するものの等續々として百鬼夜行の如くに現はれ來れり、此際固より二葉亭の細妙なる、美妙齋の麗巧なる、南翠の豐富なる著作なかりしにはあらずと雖ども、之を茫々漠々たる雜花亂草の多きに比べては固より能く比較せらるべきに非ず、否な寧ろ別言して此の少なきものが彼の多くの茫々漠々たるものを出現せしめたりとも云ふべきか、兎に角詮ずる處ろ甚はだ美なるものは至つて少なかりしに相違なし。

何に由りて如此く多くの小説は出で來り、且つ出で來るとを得たる乎。某氏嘗て吾人に語つて云く、法律を學ぶにも四五年は掛り、醫學を修むるにも六七年は掛る、只だ文學のみは二三年にて利口に辨ずるとを得るなりと、嗚呼近來文學を專門とするもの丶多き理由は果して如此きものか、之を然るべしと吾人は斷言し得るものにあらず、固より亦斷言するを好まざるもの也、然れども既に今の文學に從事するものにして公然如此き言語を吐くとあるを見れば、亦た今の專門文學家を起したる諸元因中には偶ま此の一元因を存するとなかるべしとは斷言する能わず、甚だ面白からぬとにこそ。

左らば流行の風は今の木の葉小説家を吹寄せたり、容易の波は今の浮き草小説家を流し着けたりと言ふものあるも、必らずしも吾人は敢て然るとなしと慷慨するの勇なきを悲しむ。

左らば女流の小説家諸君よ、諸君に向つて萬一亦た如此き惡評を寄するものあらんとき、吾人は亦必らずしも常に諸君の爲に辨護するとを得ざるものなり、之を辨護するとを得ざる吾人が悲しみは蓋し吾人を知るもの丶能く推察し玉わる所ろならん、實に歎息なり、殘念の事なり。

然りと雖ども女流中固より大ひなる文學者なきに非ず、其の高きものに就て云はゞ、昔し第一流の天文學書、經濟學書等を認ためたる女性固より之れあり、其小説書類に就て云はゞ古今第一流の稗史戯作を作りたる女性特に尤も多し、而して之を我國一國の經歷に於て、然も之を歐西の文化未だ行われざりし昔日に於て見るも、女性にして小説の著作に從事し、爾來數千百年の久しき今日に至る迄で、盛んに其の芳名を香はせて何ほ今人に敬慕せらる丶もの少なきに非ず、式部が源氏物語に於ける、お通が淨瑠璃姫物語に於ける如き即ち之れなり、其他、伊勢が伊勢物語、道綱の母が蜻蛉日記、大貳三位が狹衣、淸少納言が枕の草紙、赤染右衛門が榮花物語の如き殆んど亦た之に類す。

左れば吾人は文學に於ける女流の技倆を夢にだも無みするものにあらず、特に况んや其の小説書類に於けるの技倆に至つては蟣腸寸毫も其の劣るあるを思ふものにあらず、寧ろ熱心に其の技倆あるとを開唱し、又熱心に其技倆の發露せんとを祈る、他に敢て異存あるなし。

然れども茲に斷じて女流の文學者に警告し得る所ろのものは之れ有り、云く好し假令ひ諸君は文學に堪能なりと云へども文學に堪能なるが故に悉とく小説家たり得ると云ふ可らず、

而して固より亦悉とく小說家たるべしとの責任あるものにあらず、故に諸君が取るべき文學上の事業には他に滔々漫々として更に宏大なる働らき場所ありと警告せざるを得ず。諸君にして若し自由に外國の書を讀み得るか、若しくは又自由に麗筆を揮ふを得るか、左らば諸君の業は之れあるが爲めに必らずしも小說を反譯著作すべきのみに限られまじ。見よ今の日本の新版書中に、果て完全したる姫鏡樣の著作ありし乎、果して充分なる婦人傳に類する書籍ありし乎、果して小供の談に用ゆべき新書ありし乎、果して家政看病等を案內すべき新書ありし乎、果して歷史經濟理化生理等の學術を平易に說述したる新書ありし乎、固より之れありし然れども其の尤も完全したる尤も深切なるものハ至て少なかりしと記臆せり、否な若し少からざりしとするも其の女流の筆に成りたるものは殆んど全く之れあらざりしと記臆せり、然るに我國現今の物躰の女性は實に此類の書籍に向つて連りに渴望するものあり、今の女流文學者の學才筆力は能く此類の書籍を反譯、若くは著作するの業に余祐あるものなり、然るに世に此の尤も需要あり尤も有益なる書籍の女流の手に成ると甚だ少なくして、流行又流行殆んど見るに厭ふ小說界中に反つて切りに女流の著作現はるゝを見る、故に吾人は或は之を惜しみ或は之を奇しまざるを得ず。

如斯きは只だ吾人が極めて淡泊に警告し極て無頓着に注文したるものとして見らるべし、然るに拘らず諸君は固く決定し何如にすとも倚ほ之より小說の著作に從事すべしと奮發せらるゝか、左らば吾人は別に一事の更に警告したきものあり、云く諸君は女性なり、故に宜しく女性としての小說家たるべし、と。

古來外界の現象は男子のみ之を見たり、故に其の見盡したるものゝ上にも倚ほ男性の目付得ざる事物多く存するあらん、今の社會を見るも亦實に然り、若し男子の眼に加ふるに更に女性の眼を以てせば、恐らくは之れなきが爲めに見遁すべかりし新たなる事物も之あるが爲めに尤も多く發見せらるゝとあるべし、見るべしクライミアの戰塲に脫々として失せ行きたる病める兵卒は彼の暴けき武官の眼には入らざりしものなり、然れどもナイテンゲールの一流は能く之を認ため得たり、米國の製造所に營々として馬の如くに働らきつる憫れなる黑奴は彼の殘酷なる男主人の眼には入らざりしもの也、然れどもストー夫人の一流は能く之を認ため得たり、飲酒の害は毒

を流すが如し、深く骨髓に入りて世々の人を殺すなり、然れども其害は醉へる男子狂へる男子の眼には入らざりし、然るにウイルラルド孃の一流は能く之を認ためたり、如此き類古今に其例し極めて多し、即はち知る女性は男性の氣の付かざる目の及ばざる心の至らざる百尺竿頭更に一進步したるの先をば明認し得るなれ。左れば其の小說家として社界の現象を觀察するときも亦た先づ男性小說家の及ばざる地步に直進し、敢て彼等が大忘却するの方向を睨まざる可らず、如此くあらば其の作りたるものは必らずや斬新ならん、只徒らに斬新なるのみにあらず必らずや尤も善良ある方向に向つて斬新あらん。スタル夫人が小說を著わすや民權に慣うりたるものなり、盖し其の希望する所ろユーゴに同じきと云へども而も其の着眼する所ろ固よりユーゴに同じからず、エリチツト女史が小說を著わすや深く人情を剖ちて極微を穿てり、然れども其の長ずる所ろシエクスピアに同じからず、スタル夫人は情更に切なりし、エリチツト女史は女性を辨ずること更らに微かなりし。

抑そも今の男性小說家が悉とく見遁す所ろにして、而して彼の優切なる女性小說家が目に尤も早く目附らるべき所ろのものは、見よ現今の日本の社會表面に星の如く散在せり、先づ尤も精はしく今の婦人歎を歎じ得るものは誰なるべきぞ、又尤も切に今の藝娼妓に歎じ得るものは誰なるべきぞ、又尤も切に今の監獄の狀態に歎じ得るものは誰なるべきぞ、又尤も切に今の敎へられざる小兒療されざるの病人に歎じ得るものは誰なるべきぞ、又尤も切に不義を惡み善を慕ひ此の美なる富士山琵琶湖に尤も切に吟じ此の靜かなる日の出の國の美術に尤も切に歌ひ得るものは果して誰あるべきぞ、吾人は必らず其の男性文學者にあらずして女性の文學者なるべきを知れり。左らば今の女流の小說家は先づ此等にこそ着眼すべきなれ、此等に着眼せば諸君が滿情は自然にして溢るべし、故に其小說は亦自然にして立派となるべし。

然るを特更に男性小說家の風儀に眞似し、而も尤も其の下卑たる所ろの風儀に眞似し、敢て情を曲げて不淸潔の事を思ひ、又敢て筆を曲げて不淸潔の文字を作るに至りては抑そも何事ぞや、昔し褒似は血を啜れりと云へり、美なる女秀才にして敢て下卑殘酷なる小說を作らんとするを見れば、吾人は實に彼が血を舐る如くに感ずる也。

注視せよ、自由を踏付たるナポチレチンはスタル夫人の小說

を見て戰栗したるにあらずや、又注視せよ、自由を奪ひたる百千萬の主人はストゥ夫人の小說を見て慟哭したるにあらずや、嗚呼女流よ汝ぢが温たかなる情の泉は何如に高潔善美の風に動き易きよ、汝ぢが眼に映つる姦惡不潔不幸不慈悲等の現象は何如に速に汝ぢが情海に大怒濤を起さしむるよ、嗚呼女流よ汝ぢが胸には妻琴あり只だ極めて淸きの手にのみ鳴らさるべし、願くは之を汚れたる無情の手に抓かしむる勿れ。左れば吾人は云ふ、女流の小說家は男性の小說家に學ぶ可らずと、否なスカットの作を七度び讀むが如き固より決して之を不可なりと云はず、然れども只だ之に聞けよ敢て學ぶ勿れ只だ學べよ敢て倣ふ勿れとは云ふ、女粹は自づから男粹に異なる、女粹に依りて作らるべき小說は固より男子が小說と異なるべきの筈あるにあらずや。ジヨンソン嘗てシエクスピアを評して曰く、シエクスピア院本の高き所以は其の愛情以外の百情を能く穿たるにありと、蓋し若し人情を穿てるを以て小說の一長所なりとせば彼の只だ愛情のみを寫して他を寫し得ざる如きは抑そも小說家の巧みなる所ろにあらざ、然るに今の小說家の多くは、もし佳人才子のめでたし〳〵なければ小說たるを得ずと思へるの風あり、其の未だ至らざるは固より他日に待つべきもの也、然るに今に於て女流小說家が敢て只だ之にのみ倣はんとするは抑そも何事ぞ、愛情（否な男女夫婦間の愛情）以外諸君が寫すべきの問題山の如く存す、然るに云く見初めたり、云く戀々したり、云く戀しひワイナと、嗚呼何んぞ其の眼界の淺薄窮屈なるや。

而して更に甚しきは、敢て下郎たらんとするものあり、敢て淫婦たらんとするものあり、敢て賤劣なる人物を氣取りて揚々得意たるものあり、噫如此にして能く果して女流の小說家たる本色あるを得べき乎、錦繡を衣て乞食し、神聖にして盜賊し、慈悲にして殺害す、固より殘念の事なり、然れども此の優美なる女流小說家にして特更らに野卑賤劣たらんとす、遺恨無限何者か之に及かん。

論說

○婦人の王國

平岩恒保述

左は明治女學校每金曜日の講談會に於て、先頃米國より歸朝せられたる平岩氏が演述せられたるものゝ筆記なり。

今府下には、女學校の數多くありますけれども、其中一種特別なるのは、此明治女學校と思ひます、之は何故であるかと申せば、官で立てたる學校でもなく、世に多くある傳道會社

の設立せるミッション女學校でもなく、又人々を勸誘し其勸誘に依て立てたる學校でもなく、全く有志者の御盡力で立ち、充分に女子の教育をなさると云ふ樣な日本に多く無き處の學校であるからです。此學校を立つる爲めに盡力なされた方、又現今盡力なされて居る方には、私も交際して居る處からして、其人々を充分に敬愛し何時か學校に參つて内部の摸樣を見たしと思ひましたが、幸に今日は教頭の御依賴に依つて學校に參り、茲に貴孃方にお目に掛る事の出來るは誠に喜ばしく思ひます、依て御依賴に任せ暫くの間お耳を拜借して私の思ふ處を演べませう。

私の只今よりして貴孃方に演べませうと思ふのは、何んと題の名をつけたら宜からうか、今假りに婦人の王國と云ふ題にして暫く御咄し致しませう。日本の文運も漸く進みまして、男尊女卑の風俗も漸く其惡しきを悟り、是を改良仕樣と云ふ事に盡力し奔走なさるゝ方も次第に多くなつたから、是よりして婦人の地位も變りませう、其地位の高くなるに從つて人に重んぜらるゝ樣にもなりませう。從つて貴孃方の世間に運動なさるゝ區域も廣くなる事であらうと思ひますから、貴孃方の爲に御愛度い事と御祝ひ申します、又貴孃方も豫め其心組を爲つて何うか一方の事に盡力し樣と考へても居らつしやらると思ひます。ダガ此際に方つて導く人も注意しなければならぬ、導かるゝ人も注意しなければならぬ事があると思ふのです、兎角物が珍らしい時は其熱に浮かされて、導く人も何處迄連れて行く量見やら知らずに居る者である、女權を擴張し女子の位地を高めるに就ては、是を過ごす時は或は誤り無いとも言はれぬ、注意の上にも注意を加へなければならぬ事で、形の出來上りたる上は餘り注意の要らぬ者であるが、其形を拵へ初める時こそ最も注意の必要なる時である。日本の文運が段々進んで、婦人の働きが今後一層廣まるでもあらう、勢力が強くも成りませうが、是迄迚も婦人の勢力は隨分強く隨分力あつたものであるのです、古代希臘の詩人アナクリオンと云ふ人が既に婦人の勢力の大なる事を思つて一篇の詩を賦したる事がある、其中に左の如き事が云ふてある、

天は萬の物に恵を授く　海にあそび陸に榮える
大なるも小なるも物みな　其手より多少恩を受ざるなし
その中に更に惠豐に男には　更に尊き心の力を賦へたり
さりとて女も亦疎略にせず　雅と美とこそその分なれ
その感化の力極て強く　智や才や劒の上にも出づ

極く昔しに於てすら、男子の爲すとの出來ぬとを、女子は能く是を成し遂げたる其力は實に大なる者と云つて斯く詠じられたので御座りませう、併しアナクリオンの詩で初めて婦人の力の大なるとを知つたのではない、支那でも日本でも婦人の勢の强きとは明らかに解つて居る。一つの點に就て申せば歐羅巴の社會を變化したる者は實に婦人であると云ふても宜しいです、彼のクレオパトラ女王の勢力が羅馬の大將の心を動かさ無つたならば、歐羅巴の今日の有樣は未だ見る事は出來なかつたかも知れない、日本でも支那でも、婦人の勢力に由て城を傾けたる者も、國を傾けたる者もある、或は其の愛に溺れて身を立る事も國を立つる事も出來なかつたものもある、是等も矢張り婦人の勢力は善いにもせよ惡るいにもせよ實に驚くべき者であつたと云ふとが解かる。故に婦人は己の勢力の强大なるとを充分に心得て、是を能く善い方に用ゐる樣に注意しなければならんでせう。併し今日日本にて段々女子の位地を重ずるに至つたのは、啻に是まで婦人が勢力あつたを認めたるに因るにもあらず、又婦人は男子と違ひ卑しく造られたる者でないとの道理を認めて來たのでもなくして、○○○風の吹き廻はしてあらうと思ふ、則ち西洋風と云ふ亞米利加風、英吉利風が遠く東洋の我國に迄吹き來つて、日本の社會を幾分か動かし今日迄の勢をなしたのに相違ないと思ふ。(未完)

○飮食物の說附酒と煙草の害(其六)　津田仙述

其後同人はサッパリ酒を止めましたから其母は大層に喜びまして津田さんに御禮を云はなければならぬと、每日言ひ暮して餘り喜んで遂に痾を起しました、ソーしますとドウゾ己の命の在る內に津田さんに禮を述べて與れと申しました故、此人は孝心の人でありますから態々出京されました、全躰此人は以前基督敎は極嫌ひな人でありましたが、此日新約全書を買ひ求め滊車の中で之を讀ましたら其中に汝の敵を愛せ我が妻を取扱ふは弱き器の如くせよと云ふとがあるのを見て大に感じたる由、其後母は死なれまして其死なれる時に誠に悴が酒を止めたから最期の世に思ひ遺す事はないと云つて喜んで死なれたソーデあります、元來此の家は蠶種紙製造人でありましたが母の病氣の取込中に二百枚の種紙を入れたる箱を二階へ上げ蓋の仕用が惡るかつた爲に鼠が這入つて悉皆其の種紙を疵物に致しました、此の種紙は是迄一枚二圓宛で現金で賣る規則でありましたから妻君が此事を大層に心配して飛ん

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

だ濟まない不調法を致しましたと云つて、亭主が歸りますと直に之を告げました、其時女房は定めて亭主が大層怒るだろうと思ひましたが案外柔しく夫れは飛んだとをした、併し食はれたものは仕方がない定めて箱の拵へ樣が惡かつたのであらうと申しますから、妻ハイ、エ何に私が蓋の致し方が惡くつて少し明いて居りましたからと申しますと、何しろ食れて仕舞た上ハ致し方なし心配しなさるなと云ひました、妻君は其亭主が餘り何つにない柔しいから不審に思つて段々尋ねて見ますと此間津田さんに勸められたから基督敎の本を買つて見たら妻と云ふ者は弱き器の如く取扱へと在つたから是からは斯うしなければならんと申しました、妻君は之れを聞いて誠に喜び其後其種紙を施しに出すと云つて人々に聖書を讀み聞せて其種紙を皆施しました、所が今年の養蠶は皆其種紙を貰つた人は非常に善く出來ました、其人々から禮を受けて却つて儲かつたと云ふ話であります、若し何つもの例を守つて賣つて居りましたなら却て損にあつたかも知れません、扨て此主人の性質として前申しました通り、基督敎は大嫌ひでありましたが、是からして喜んで家内中洗禮を受けるのみならず、基督敎の事に大層盡力する人となりました。

扨て人間と云ふ者は、何時も平等なる者に非す、一度少しく墮落するときには何ほ一層墮落する者なり、故に酒を飲むと遊蕩になり、遊蕩すると金か要る、金が要るから遂に盜みをして肉躰と靈魂とを失ふとが御座います、併しながら酒を止めたる上は妻を愛し又施しも爲すと云ふ樣に進んで行ものて、上へも進み又下へも落つるものであります、ソーして我國人の肉躰は段々小さくなつて古への樣ではありません、此改良を加へんとする時に當り實に我國は獨立を爲すか爲さんかと云ふに當り、外には外國人を控へて居ります、外國人が活潑健康にして萬事に敏捷なるを見て羨ましくはありませんか、其自主自由を唱へて行く境遇は羨ましくはありませんか、一夫一婦を守つて子孫を保ち世を送る基督敎の人は全く己れの精神を盡し神の榮光を彰さんとして他人を愛すると己れの如くして、何の樣な事に於ても善を見ては之を行ふと云ふ精神で御座います故に此敎に入りて我國人心の腐敗を止るの鹽となり暗を照す光りとなつて、此矯風會の爲に御盡力あらんとを切に希望する處あり。(完)

智慧ある人の敎訓はいのちの泉なり、能く人をして死の罟を脫れしむ、善にして折きものは恩を蒙る、されど悖逆者の途は艱難なり。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

批評

○九鬼君演說の大旨

此書は臨時全國寶物取調委員長九鬼隆一君が去月大坂商法會議所に於て演述せられたるものを三宅米吉氏が筆記せられたるもの也。美術論に關し、特に日本今后の畫風に關しては、吾人は不幸にして九鬼君と同意見を有する能わず、故に此書の如きに於ても亦た止を得ず不同意を表するの殘念あるべしと預想したるに、一讀し去つて殆んど芳香せる花園を橫ぎりたる如く、寧しろ慷慨憂國せる美なる詩人と快談したるの感あり、而して此書に論ぜられたる限りに於ては、吾人は尤も熱心に九鬼君に同意を表せざるを得ず。美術を鑑するの眞趣を說いて云く、

夫れ古物を探討保護するは有益にして面白き事業なれども必竟過去の影裏に起臥するに過ぎず古人の遺物を尊崇するに過ぎず、之に依て新路を闢き別天地をなす非ざれば遂には古物家と襲を同うし美術家たるの資格を失ふものなり、眞正の美術なるものは其時代を表彰するものなれば他の時代に在ては本分の功用を致すに於て多少の不足なきを得ざるなり、物表に施し來る一箇の氣運は其時代の邪望情欲喜怒哀樂を訴ふるなり、英雄の血を濺ぎ兒女の涙を揮ひ悲痕淋漓賦色暗澹、紙若し心あらば笑語滿面ならん、絹豈靈なからんや秋波瀲灔たり、蓋し東西三萬里上下八千年の間治亂興亡の際人泣鬼哭の間に在ては一動一止盡く特異にして又之を再びする能はず、人は其時世の奴隸なり人は其身を脫する能はざるものなり、年々歳々花相似たるも遂に相同じからず、吳季の丹青韓柳の文章其妙を異にするは自然の勢なり、而して古大家の文藻を靈賞するにも美術上の高格秀致は後世に在ても同感を以て愛惜すべしと雖ども、當時特種の境遇に依て生じたる題旨と風趣に在ては後人の窺ひ知る能はざるものあるなり、故に眞の精鑑者は單に美術品の骨相のみを研究するに止まらず能く其時代の文物、政治の現象、宗教の性質、社會の組織、一家の標等に盡く能く心中に解得し去り、身を想像世界に置き當時の人となりて其祕を探るに非ざれば未だ眞趣を得る者と云ふ可らず。

又たイーチ、エンド、テール一物萬躰の理によりて、美術と社會境遇との關係密なることを說きて云く、

最も高尙の點より論じ來れば博物館に美術品を陳列するは間違ひさ云ふも可なり、蓋し一幅の山水一基の彫像の人間に現出するや偶然に非ざるなり、其製作の最も卓絶なるや益々實際の有形無形の須要に應じて現出したるものなり其須要に應ぜざるものは抽象的の美術上の骨相精細周到なるも必ず奇僻を恣にし又は迂遠に遂ひ隨て美術上の骨相にも亦取捨を生ずるの弊あり、一物にして當初の實用を離れたるものは眞の風趣を示す能はざるなり、慈悲忍辱三十二の相好を具備したる佛菩薩の靈像は莊嚴具足の伽藍に於てこそ眞に全く作者の苦心と美妙さを欣得するを得べし、博物館の列品箱裏に安置し玻璃窓板を隔離し番號を付し題名を添へ人天龍像惡鬼羅刹の間に混合雜列するときは其威嚴を竊はんと欲するも猶亡國の王に謁し敗軍の將に接するに異ならず、若し夫れ人事完全を期すべくんば過去の佛像を保存するに當て檀門堂塔盡く舊に依らしめ佛菩薩天部護法の諸神は適當の地に之を存置したらんには能く其目的を達するを得べし、東山名物の梵竺僊は四疊半を離れては多少の趣致を失ふべし、在座中の茶人も西洋室内に入りては秋の庭に森萵蒿が咲き殘りたる感なきにしも非ず、元祿古物の可笑味も文化文政に入りては必ずしも可笑からず、京傳種彥の新按も明治の嗜好に取りては分解らぬ所も多かるべし、唯是古代の絕品中能く當時の全趣を示すものはポンペイと我正倉院あるのみ。

今や政海將に狂瀾頽濤を起さんとす、此際著者の如くに熱心に美術を振興せんとするものあるは國の爲に大賀すべきもの也、吾人は只だ此の一書を愛して如此く云ふのみ、若し夫れ美術上の他の異論に就ては、他日愚見を草して敎を著者に請はざるを得ず

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

叢話

○日本社會の空氣　中島俊子

空氣日本社會の空氣よ汝が吾等に竭すの功勞は實に大なり汝は黯淡なるより漸次に清朗に向ひたり汝は曾て一夫一婦論者を笑ひたり左れど今日は汝之を稱贊せり汝は曾て酒杯の爲に衣を點す俗事に非ずと歌はしめたり左れど今日は汝以て之を俗なりと爲せり汝は曾て弄花翫柳は英雄の事なりと思はしめたり左れど汝は以て之上もなき卑むべき事と思はしめたり汝は曾て女性は男性の次に位するものなりと安んぜしめたり左れど今日は汝之を同等の人類なりと悟らしめたり汝は曾て社會は權謀術數にて世渡りの出來るものなりと承知せしめたり左れど今日は汝純潔なる愛ならでは覺束なしと感ぜしめたり嗚呼汝が吾等に竭すの功勞は實に大なるぞ吾等は汝が功勞を謝するを辭せざるなり左れど余は汝を以て滿足する能はざるなり汝自ら知るや否や汝は吾等社會に對して尙不忠なるぞ尙不貞なるぞ汝は尙兎角黯淡なるぞ汝は常に臆病に左右さるゝぞ汝が黯淡と臆病とは此社會に對して不忠不貞を來すの原素なりと知れ汝今日英國のヂルクを見ざるやヂルクは龍動市長の候補者に撰ばれたり左れど千五百名の婦人は彼が曾て不道德の行ひありしを以て之を辨論して遂に之が候補者たるを見合すに至しに非ずや彼何ぞ其社會に忠貞なる何ぞ其社會に對して臆病ならざるの甚しき汝日本の空氣よ汝は私かに人を非難するの癖あるぞ汝は輕しく是非を判決するの癖あるぞ汝は動もすれば權門に媚ぶるの風あるぞ人一度世に出ば忽貴み退けば忽卑しむの輕擧あるぞ人權勢ある時は如何なる不德も之を黯淡の中に埋め權勢なき時は不德なきも尙あるが如くに浮說するの卑劣心あるぞ汝尙社會に對して不忠なり不貞なり汝幸に之を悟りて改めんとなれば請能く女性に親しめ女性を佐けよ女性は汝涙多しと叫びたり左れど不充分なり若社會の人類よして道德を亂するものありと言へば女性をして汝先之が信僞を知るの智あらしめよ若之ありとせば女性をして汝之が爲に血涙を灑がしめ暗夜人なき窓神に祈を捧ぐるの愛を供へしめよ彼之を悔るの色なくは女性をして汝之が爲に心より怒り心より罰し遂に之をして社會に入れしめざるの勢力を有つを得せしめよ。

芍藥薔薇各放ㇾ香。春憐無三漫事二新妝一。一枝有ㇾ力
佳人筆。不ㇾ許治郞爲二市長一。

家は智慧によりて建られ明哲によりて堅くせらる。

○先進の人は大山の如し　もみぢ

今の女學生は尤も不幸の地に立つものなり、若し學ありて世に容れられず、才ありて人に示すを得ず、潔白にして之を守るに難く、高尙にして悟らるゝヿの少なきものあらば、如此き人こそ即はち今の尤も進歩したる女學生に多かんめれ。理想にしたる大丈夫は未だ世に出でず、賴みにすべき勳爵士は尙ほ現わるゝヿなし、最とも切なる溫情あれども之を托するの人なく、全心を凝るの愛は鬱積すれども之を與ふるの友もなし。而して彼は泣く爲に自由を學ばせられ、恨む爲に愛情を覺らせられ、羨む爲に文明の風俗を敎られたり、嗚呼悲しき哉今の女學生。

されど決して落膽する勿れ、君等が此の泣きによりて後の大自由は伸ぶるものなれ、凡そ先進の人は皆な苦しまざる可らず、苦しんで道を開くが即はち先進者の務めならん。其の苦しむヿのいよ／＼大ひなれば大ひなるほどに、之が世を開くの績ほしも亦いよ／＼大ひなるなり。故に先進の人は喩るに大山の如し、屹然聳えて天空に達す、其の光りを受るヿは惣てよりも早く暗きに沒するヿは惣てよりも遲し、左れど其の涙の雨は先第一に灑かゝり、白髮の雪は四時たゆるヿなけん。

○笑わせる仕方　かすみ

笑ひは猶ほ避雷針の如し、何如なる霹靂も之よりは靜かに散ずるなり、左れば笑ふと云ふヿは決して不道德の事にもあるまじく人はたゞ不道德の笑ひを爲さぬやうにこそ勉むべきならん、然るに笑ひにいろ／＼の種類ある如く人を笑わするにも亦たいろ／＼の仕方あるなれ。

たとへば嚴めしき講釋師のシャレと、上品なる落語家のシャレと、下卑たるヘラ／＼流のシャレとあるべし。一ツは六かしい怒つた樣の顏附をして意外に笑わせるゆへ人も意外に笑ふなり、第二はシャレを言ひ乍ら極めて平氣で落附き居るゆへ之が可笑さに亦た笑ふなり、第三に至りては其の當人が先づ大ひに笑ふゆへ仕方なく見るものも亦た笑ふ也。三者の優劣何如ん。

古人に其例を求れば恰かもスヰフトと、エヂソンと、ボルテーアの如し。ボルテーアのシャレんとするや先づ躍り騷ぎ、歯をむき出し、肩を振り、手を擧げ、鼻を倒さまにし、舌を出し、全身亂騷して即はち人を笑わすに似たり。スヰフトは人の絶倒するとき知らぬ顏をして嚴めしく威張り、天下の悉く笑ひぞよめくとき獨り極めて嚴肅なる風をなす、而して、そ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

の惣ての作者は即ち此の當人にてあるが如し。エヂソンは殆んど其の中間に立てり、先づ快よく微笑して人を笑わせ、奇麗にシャレて人を快笑せしめ、優々綽雅として自由に人を樂しましむ、實に是れ君子の滑稽の如し。

思ふに民友子のシャレはスヰフトよ似たり、櫻痴氏のシャレはボルテーヤに似たり、經濟記者或は尤もエヂソンに近きか、小說家に付て云はゞ馬琴はエヂソンの如く、三馬はボルテーアの如し、近頃ろ浮雲はスヰフトに似て、書生氣質は第三種に屬するか、惜ひ哉未だエヂソンの滑稽あるを見ず。人ありて若し女學子のシャレは如何と問ゞ、女學子は先今の女流の小說家が男らしくシャレ、男らしく放言し、男らしく暴言を吐を好まずとのみ答ふべし。

客ありチイツヂルスを扼してシャレしむ、チイツヂルス甚はだ迷惑したるが辛ふじて咳一咳し滑稽に取かゝりて曰くむかし一人の農夫あり田を耕やせり、旅人其の前を通りかゝりて問ふて云く私しの妻は何處へ行ましたと、農夫云く人の細君を知るものですかと。

諸客沈默、閉息して其次を窺へり、何んぞ計らん之れ丈けが即はちチイツヂルスのシャレにてありける。

○小供の育て方　婦人衞生雜誌　ドクトル　加藤照麿述

小兒保育法の事を私が爰に述べましても一寸詰らぬ事の樣にも聞こへ、まだ御若き方々に對しては一向に價値の無き話しです、併し私が獨逸に留學して居る時分に其先生が仰せらるゝには、足下が日本に歸つたならば大事あとだから何卒して此の小兒保育を廣めて呉れ盛んにして呉れと、永き間世話にありましたる有名の先生に私は依賴を受けましたのです、故に私は唯其先生の假聲をつかうだけです。

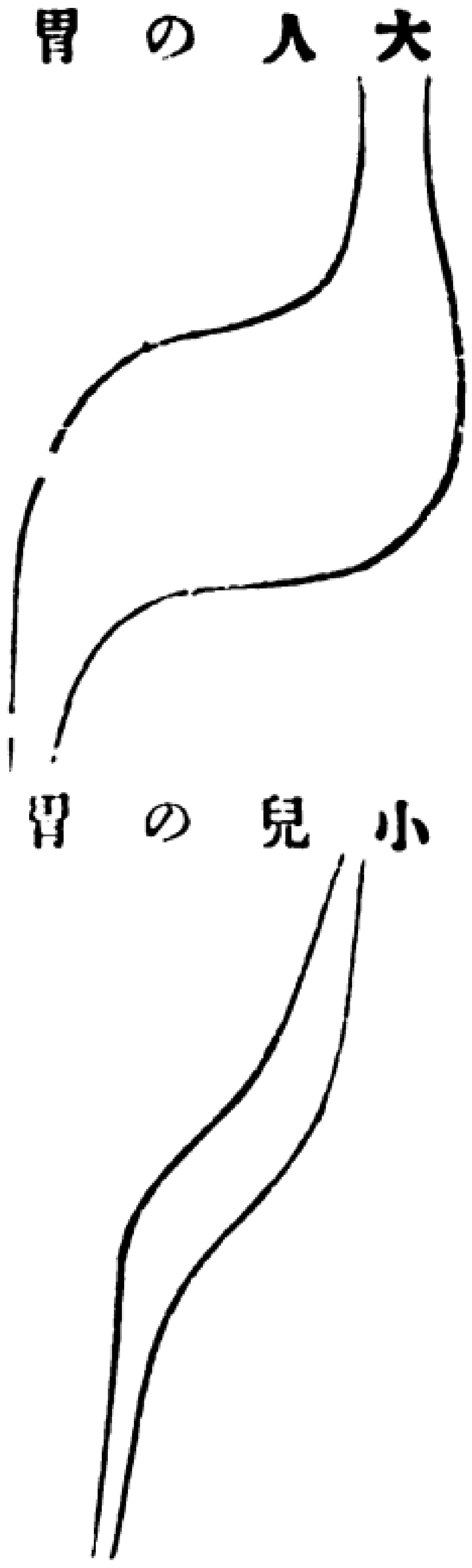
世の中に總ての動物の事共を能く考へますると人間の小供が一番世話のやける者です、下等動物の魚類の如きに至れば、南海に卵を産みて其儘己れは北海に游泳し去りますが、卵は自然に孵へる則ち親は構はずに小供は成長するのです、少し等を進めて、犬や猫になれは三匹も四匹も腹から産み出ます、併し魚類に比較すれば三日なり四日なり乳を飮ませなければならんと云事になつて居、けれ共其樣な事にては人間は育ちません、上等の動物になればなる程育て方が六ケ敷のです。

小供と大人とは如何にして消化が違うかと云ふ事を確めないと少し分りませんから、重複を顧みずして爰に申上るが、第一に小供は口を動かす所の筋と云ふ者が大人よりも弱い、換

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

言すれば物を噛む力が大人の様では御座いません、又唾液と云ふ者の出方に多少の差がある、乃ち初の内は極少いものです、其外口の事は別に述べませんが只畫にかゝないでは解かりませんのは胃嚢です。

大人の胃は大きくして横さまに爲つて居るから食物が中に留る事が出きますが、生れたての小兒には殆んど其嚢もないと云ふ位、有る事はあるのですが早く云へば飲物即ち乳などは



縦に流れて留る事は出きんから容易に乳を吐くと云ふ事が起るのです、先づ説明は此位に止めて次に一つ考へなければならん事がある。

小供には何を食べさせたら宜しからうか、此の様な大なる問をかけます、先づ物を食るにも歯が御座りませんし其上胃も弱いから第一柔かの物でなければならぬ、故にアナタ方も御承知の通り一番に宜しいのは生み親の乳です、併し小兒を産みて二三日の間は脂のある小兒には飲ませて悪い乳が出ますソレですから生れてから直ぐに母の乳を飲せると云ふ譯にも往かぬ、然らば乳は何時頃が一番宜しいであらうかと云ふに、小供を持たれたる方は御承知でもありませうが、産後二三ケ月位の時が一番に多く出、又た宜ろしいのが出ます、且つ乳の出るのは人種によりても違ひます、伊太利婦人は世界中で一番餘計に乳を出すと云ふ事ですが是れは本當で御座いませう、又躰格の強壯なる人と衰弱したる人とによりて分量の多少は御座いませう、且つ一寸サハッても知れるが先づ固くして大きいのが宜しい、尤も固き加減にもよるが小さくしてシナビたる乳は澤山の乳は出ません、又婦人は二十歳より三十歳までが一番乳の澤山に出るもので子供を度々持た人は跡になる程乳の出方が減じます。

生み親が自分の子供に乳を呑せますと色々善い事が御座います、先づ産を致しますと素と子宮の中で次第に大きくなつた子供が産れるのですから其後が舊の様になりません、然るに乳を飲ませますと早く子宮が舊の様に小くなるので、若し早く舊に復さないと病に罹り易いと云ふ患が起る、是れは母親に大事の所です、故に小供には一番生み親の乳が宜しく、生み親は又乳を飲まれるのが宜しいのです、又人乳が一番安價

なるものです牛乳の様に買に及ません、其他自分で乳を呑せますと常に抱事が度々有るものてすから自然親子の情愛が厚いものです。

少し委しきに過ぐるかは知れませんが母親と爲らるゝ人の爲めに申して置くが、妊婦が六ケ月にも八ケ月にもなつてまだ乳首が出ないで仕方のない人が澤山にあります、此等の人は早く水で擽ッたりつまんだり又アルコールで流ッたりなどして大きくしなければ生れた子供が乳を呑むとが出來ません。

母親は乳を飲ませるのが當前ではあるが、又飲ませ兼る場合がある、然して是れは是非母親でなければならんと定めたる必要の起りは、佛蘭西人が詰らぬ事をして獨逸人が矯正したのであると云ふものは、佛國の貴族や勅任官たちの妻君たる者は、日本の風俗とは反對で何れも交際に立交り良人の代りに出かける事もあるから、始終小兒を胸にあて懐に抱きて奔走する事は出きぬから、自ら小供を保育すると云ふことは無い、且つ乳を飲ませると早くおばあさんにナルト云ふ様な所から、人工養育と申して牛の乳などばかりで育てる、之をば防がんとして獨逸人が目下工夫して居るのである、其外に自然の虚弱質で母親の乳の出ぬのがある、是れは宜しく醫者の診察を受けべき者です、又病によりて飲ませられぬ乳がある、即ち一番に恐るべきは肺病の結核と申して遺傳性の病は毒が乳の中から出ますから決してこれを以て育てる事は出きません、又精神病の如き癲癇の如きは子供をあづけるとは出來ません。

母親が傳染病に掛た時は元より子供をはなさなければなりません、併し梅毒だけは飲せても宜しい時がある、ケレ共ソレは醫者で無ければ解かりませんから醫者が診察したる上で申上る事にします。尚一ッ貧乏人の小供になれば飲乳して居るとは出來ません、獨逸などでは女房が薪を挽き亭主が薪を割るを以つて生活として居る者が澤山にある、此等の者になれば朝早く家を出たなりに夜る歸て來るから自ら小供の世話をして居る事は出きぬ、之に向て是非とも乳を飲ませろと云ふのも無理ですからこは何かの方法を設けなければならん(未完)、

○三條沓三の政治

是空子

むかし木曾殿京師を押領し、其の短命なる天下を思ふまゝに支配しける比ほひ、三條沓三と申す一人の家來奉行とありて都を治めたり。

御奉行さまに伺がひまする、丹波の國荒熊郡に於きまして主

人平太夫が頂戴する地領內に一つの河あり之に橋が懸ると覺し召され、橋の彼方に關門しつらへ往き來さの旅人を吟味いたし罷り在り、兼て高札打つて觸れ申しけるは、

凡そ此の橋通行の者は其の行先を在躰に申通ずべき事、萬一僞りなど申すに於ては直樣首つりの刑に可處、實を告ぐるものに限り通行御免の事。

右樣に掟ていたし、橋の傍らに仕置台造り用意仕る事必竟當節の御時世敵萬一にも都に隱れ登り候ては、と、主人特の外にお上を思ふての御奉公にて候ひし。旅人は之を見て何條僞りを申すべき皆な一々に實を告げて通行いたす處ろ、或る日一人の老人參りて申すやうは、私事別に行く可き所ろとては候はず、只だ彼の台に於て首を〆められたく存じて罷り出で候となり、以ての外の儀と直樣叱りは致したるものゝ若し之を其儘に通行せしめては彼すでに僞りを申せし科により刑を受くべき道理有之、左りとて若し之を刑に處し候はゞ實を告げたるものを首〆るの譯にて無法の至りと可相成、直を重ずるお上の御威光に對しても左樣の事は難仕、さりとて亦た法を徒らにして刑を輕んずるとも出來申さず、何如斗らひ可然やと主人以ての外に迷惑仕り、心配の餘り腰が抜け侍りて一步も推參いたしがたく候まゝ、自分代り參りて伺ひ奉るやうとありて則ち參上仕り候、如何計らひ宜しかるべきか。

番三どの殊勝に小首を傾むけ玉ひ、ホ、ウ面白き申條、然し少しも分らぬ、モ一度申してくりやれ。

使二度び三度び繰返して申す、番三殿漸やく飲込み玉ふ。

ホ、ウ何と言やる、老人は首を〆められに來たと、シテ若し首を〆らるれば彼は實を申したので、夫故橋を通行せしめらるべきものだ、然るゝ若し之を首〆ぬときは彼は僞りを言ふたに當つて、夫故に首〆らるべきものだ、と斯く申すのか。

嗚呼、銳明なる御奉行さま、その通りその通り少しも相違御座いませぬ。

フ、ウ、夫ならば容易いとで、其の實を申したる部分に通行せしめ、僞りを申したる部分を〆殺ろしたらば善らう。

銳明なる御判斷では御座りまするが、左樣ありては老人を半分に割ねば成り申さず、割けば切度死ぬると存じ候に付死せば最早半分をして通行せしむるとも出來ますまい。

尤もジヤ、たが物は公平でなくては成らぬテ、割けば成程半分は通行が出來ぬが、其代り又他の半分も最早〆め殺すとが出來んテ、双方五分〳〵ゆへ左樣いたすが善い。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

承はりてアッパレの御明斷、恐惶の至りに候、扨て〳〵番三どのはエライものよ、昔し虞芮の爭ひを解きたるも何の事かは、早く歸りて此儘に申してコマツ、此でも地方官としてはキツイおゑらいものだぞ、先のけ〳〵。

評に云く、刑の疑はしきは輕きに失せよ、律の明らかならざるは寧ろ宥せよ。

佳傳

○破鏈談　みどり

第五回　彌よ別れて益す近し。

マリーは心ならず交際社會に出入し、好ましからぬ遊興に笑ひて日を送るとは、只だ其の許嫁の夫チーンが救ひの手立あれかしと思ひてなり、然るに其の骨折と其祈りとの報ひとして、チーンはいよ〳〵終身の船推たるべしと宣告されぬ、而も明日は最早本獄に入りて一生の囚われとなるべしと聞き、マリーは父と共に行て別れをしたり。

元來マリーが母と云へるは甚たく世の譽れを好める質にて、其の娘が近來交際仲間に評判せらるゝを亦なきことに思ひければ、今まチーンが終身の囚はれとなると聞きて寧ろ結緣を解かさばやと思ひ、マリーにも其父にも左樣に勸めたり、左れば此日マリーはチーンとの約束を破らん爲めに來り、父も亦左させんとて伴ない來りしなり。

左れどマリーは固より左樣の事を爲すものにあらず、チーンが面瘦せたる姿たを見て涙を浮め乍ら、

如何にチーンよ、妾わ此頃ろ世の中の集まりに往來して、人々の狂ふ如くに遊べる樣を見るに付け、眞の幸福は斯る集りにはあらで吾等が世を忍ぶ教への上の集りにありと知りぬ、浮世の樂しみの果敢なきを見るに付けて何如に教を信ずる樂しみの淸よきかを知りぬ、

と勵ましたり、チーンはマリーを見て其身のかゝる災厄に陷いりしを思ひ出し、我れすでに斯る身の上となりたれば君は最早余との約束に結ばる可らず、君が父母の思ひ玉ふ心を推せらる斷念して只だ余は昔しありし一人の友とは記臆し玉へと云ふ、心細きと限りなし、マリーは聲を上げて怨みつゝ泣き、何とて斯る不吉の事を云い玉ふ哉、妾わすでに君に約して共に道の爲に盡さんと決心したれば、何如にしてか亦た他の人と結ばん第二の心しあるべき、君が世に在まさん限りは君何處に居ますとも妾が心は傍はらに在るべし、願はくは妾わ

りと覺りてさみしく感じ玉ふなよと勵ましたり。
然るに獄吏が許したる暫時の暇まは猶豫なく最早過去たり、彼が殘酷にも追立つるに隔てられて空しく情を飲みぬ。
父は固より毋の如くに他心を有たざるものなれば、マリーが健氣にも確たく約して分れたるを反つて喜ばしく思ひぬ、マリーは密かなる泣きを自由に泣かんとて、歸る途に父の許しを得て同地なる彼の老祖母が許に止りぬ、父は先づ歸りて毋の失望と怒りとを消さんと思ひ、異議なくマリーを遺して獨り行きぬ。
彼の父家に歸らんとする時、彼のラモントに會ひぬ、常になく眞青の顔をして忙然として立ちたれば、何如にせしやと問かけつゝ且つ云へるやう、
ラモントよ、今までヂーンを見たるに彼より君に言づけあり、ヂーンが趣向して半ば出來上りたる機械は君も一度び見たるよしなり、其の出來上らざりしは何如にも殘念なるが君もし試みなば必らず成就すべしとありて、彼の機械の雛形を君に贈り物にすとなり、行て取り玉へ。
ラモントは殆んど灰の如くになれり、一言もせで其儘彼方に走りゆきぬ、之れ何事ぞや。

小說

○理想の紳士　　月の舍しのぶ

第七回　何如にも左樣です

余は裏が暮らし方を聞て喫驚し、其日共に彼の猿の所ろに行きて賴みたりしかば、一週に極僅かの家賃をもて其の二階の片隅を借り得ることとなりぬ、裏が初めての住ひ場所かくして出來たれば余も大ひに喜こばしく、其日は特に殘り惜しく思ひ乍らも遂に分れて歸りたり。
其中に冬は來りぬ、冬の間だは一步も外に出でがたき質なれば、余は只だ家にのみ籠りて讀書したり、固より屢ば裏が事を思ひ出すと云へども、之を口に言ひ出る每にいつも勢は八釜しくわめき罵れば、後には只だ心に思ふ計りにて話しに爲ざりき。然るに冬も早や殘り少なに爲り、春も大方來つらんと思ふ比ろ、心自づからに浮立ちていよ〳〵裏が事を思ふにぞ、或日遂に父に請ふて彼を我家に遊びにとて來らしめ玉へと云へり、勢は例の如く大聲して何如であの如き乞食が合手にされませうと喧ましく云へど、父は只だ點頭かるゝのみ何とも申されざりき。
然るに父は余の不聊なるを憫れみ玉ひてか、其日午後實に彼

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

の裏をば我家に遣はされたり。三四ヶ月見ざるうちに裏は著じるしく變はりたり、其衣服も粗末なれども新たに調へしと見受けられ、頸飾り其他一と通りは揃ひたり、余が喜びにも劣らざるほどに喜こびつゝ云へるやうは、去年余に分れしのち折々獨りにて學問しつる樣を何日の間にか余が父に見認られ、既に多少の文字を知れる上は皮を集むるよりは掛を集むる方宜しかるべしとあつて、今は得意方の家を廻る掛取役を務め、特に給金も若干增され、折々は余に伴ひて散歩すべしとの許しを今朝より受けたりとなり。余は裏が一段の進歩をしたるを大ひに祝ハへると共に、父のくれ〲も余に深切に居ますとを深く心中より感謝したり。

然らば今日ハ之より何處に行かんやと相談しつるに、彼の馬須山こそ面白からめとて、裏は尤も爽快に余が車を推し、みち〱戯むれ語りつゝ彼の山の方に行きたり。

裏、冬の間だは何如して居たの、

と聞ひたるとき、

月曜日から土曜日迄、毎日〱非常な仕事計りです、夜は晝の勞れで何も出來ません、只だ寢ては起き、起きては働らいて居ました。

ダガ夫では何如して少しでも本が讀めるやうに爲たノ。

マア大抵道を歩るく時と云ふやうな、少しの餘つた時に讀ました、少しの餘りと云ふものも積ると大層なものですよ、夫に日曜日の晝後は全く暇ですから：、私しは讀書するのを惡いと思ひませんから。（日曜日は安息日として他の書物を讀むことを不可とするものもあるゆえ也）

そうとも何も惡くはないよ、そして何んな本を讀だの。

アナタの降すつたものです、天路歷程、ロビンソンクルーソウ、アラビア百物語、あれは大變に面白う御座いました、

彼の眼こは光りを發したり。

夫れから。

夫れから、あなたがクリスマスに降すつた書物、あれは餘程鄭寧に讀ました。

之即はち聖書にてある也、余は彼が聲を震はせて喜ばし氣に話を聞き、心を打つ計りに感じたるが、此等の事に付ては最早其上には語ず、彼此するうち早くも彼の馬須山に着ぬ。

そも〱此の馬須山と云へるは、昔し何の頃にやありけん戰爭のありし古跡なるとて旅人も特更らに立寄りて一見する所あるが、尚ほ山上より眺むる風景の面白ければとて近き人も

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

折々の遊び場所とは爲すなり。然るに山の下に來りしとき最早夕方に爲りければ寧ろ此儘に歸らんと云ひしに、夕日の美しき景色を嶺きより見せたしと云ひて裏は余を背負ひて上りたり。

固より小さき山なれば直ちに登りぬ、上より一望すれば夕陽天に萬色を彩どり最早末期の思ひ出にと人界に美を示すとは見へたり、時しも雪どけに水量を增したる西部川は、水勢滔々として奔流逸するとき、天のいよ〳〵赤くなると共に水色ます〳〵白くなれり。

思はずに認めたるは河中の一艘の船なり、何如なれば斯る奔流に乘出せしか、輕葉怒濤にもまれ〳〵て危うきこと限りなし、乘手は二人の男子と見へたり、命を懸けて岸に寄らんとすれば弱き瀨は之を拖して尙ほ中流に推さんとす、後とを見れば此河に固有なる高濤の流れ（風にもまれて高くなり中流に推し流るゝ强大の濤なり）雷の落る如くに寄せ來れり、アハヤ今ま彼の小舟は覆らんとす。

余はアレヨと一聲高く叫んだるが、叫び了らざるうち裏は既に宙を飛んで岸邊に走り着たり。

其儘ザンブと飛込み、腰の當り迄で沒して足を確と踏しめ、夫れその綱を投げ玉へ、引寄せ申さう、と呼かけたり、船の中の二人は之れ最後の助けと覺悟しけるか全勢を凝めて綱を放りたる恰かもよし裏の手に握られたれば、扨ても幸わいなり裏が力に引れて船は其儘岸に着きぬ、二人は飛上れり、余は遙かに眺めて只だ全身を熱しつゝありしが、人は助かり裏も恙がなかりしにぞ、先づホット息氣して彼の二人を見れば、一人は確かに過る日馬にて走り越したる武之助なり、一人は年稍老ひたる憂欝らしき紳士なり。

憂欝らしく樂しみの少なかる風の一紳士は、反つて是れ尤も多く其命の助かりしを謝する樣なるに、武之助は極めて驕慢無禮の躰にて其儘山に登らんとせり。

然るに老紳士は重々しく見廻わし、今ま裏が水より上りて靴を脫ぎつゝあるを認め、

吾等を助けたるは、貴君なるや。

と問へるに裏は僅かに首らを上げ、

さやうです。

と答へたり。

實に非常なお世話に爲りました。

武之助は肩を聳かして大笑し、

實に左樣だ、一圓位は遣らあくチヤなるまい、町田君、僕はよく彼を知つてるよ、彼は皮なめしの丁稚だ。

馬鹿を言ひ玉ふな‥‥イヤ少年、君は何と仰せらるゝか、何卒お名前を。

針葉裏と申します。

ハア左樣で、シテ何方です乎。

身分をお問なさいますか、夫は武之助氏が能く御存知で、柔皮場に働らきますものです。

町田とか云へる紳士は大ひに驚ろきたる樣にて沈默せり。然るに武之助はいよ〳〵失敬に、

ダカラ僕の言つた通りだ、コラ少年、大分立派には爲つたが確かに腐い皮を集めて居たものに違いなからう、馬車を追つて居たのだらう。

何如にも左樣です。

裏は少こし烈しく答たへたり、武之助は更に失敬にも高笑ひし、

此間だはスンデの事で蹴飛ばし相にしたのに、怨に報ゆるに恩を以てするとは感心だ、ソレ褒美に遣らう、

一圓の銀貨を投出したる、其金無言にて地に落ちたり。

寄書

○築けよ建よの歌　佐々木豐壽子

左は去十四日厚生館に於て謠はれしものゝ歌にて曲は納所辨二郎氏の作に係りしと云ふ。

皇ち御國の西京に。高く聳ゆる大學へ
慈善の人の反射なり。築けよ建よ大學を」
貧の煙すひほそくとも。富む萬煙さかとやかん
よろ津の人の貝こゝろで。築けよ建よ大學を」
たからの山へ餘所ならず。智德にすゝみ身を修む
まなびの道の郷ならめ。築けよ建よ大學を」
眞理を收むおほみくら。智識を研く工場へ
大學を言ふことさならめ。築けよ建よ大學を」
誠との基礎ふかくすゑ。信のはしらに愛のかべ
還き望みも遐はし〳〵。築けよ建よ大學を」
富士の高ねに山さくら。朝日に匂ふこゝろもて
義に勇むべし皇國ひと。築けよ建よ大學を」

○ある御方我すがたのおかしきとて
笑ひ玉ひければよめる　くみ子

すくなるなまもると聞は何事も神にまかする身こそやすけれ。
はるは咲花の姿にあらねどもこゝろは松のみさをなりけり。

○山中懷を述べて友人に贈る　明日香主人

何事も世にはおくるゝ山里にさきたつものは涙なりけり。
うたかひと共に積りし白雪のねたしや先にさけんさす歟。

○憲法を拜し奉りて　同前

櫻とも梅さもいはじ今年より御國に匂ふはなはこのはな。

○くわなについて　北相馬　宮崎何二郎

見渡せは奈野の空の濶さ哉富士も淺間もながめのまゝよ。
洞ぎりは月を隱してをぼろなり雄士のすがた何處に照す。

新報

（此の欄内自由に轉載を許す）

○小式部内侍

吾人が本號の社説を觀て或人冷然として笑ひて曰く、君何んぞ女流を責むるとの如此く酷なるぞや、今の女流の小說は決して女流之を自からせしにあらず、多くは影武者ありての處作あり、君等宜しく此の影武者をこそ責むべけれ、女流何の罪ありて敢て眞正面の攻擊を受くべきぞやと。甚しひ哉如此き言分けを爲すもの、之れ女流を保護するの辨にあらずして實に女流を大ひなる欺き手とするものなり、吾人之を怒る、然るに今の讀者中如此く思へるもの尙或は少なからず、假令ひ之迄に現はれたる女流の小說は好し立派ならずとするも、此の立派ならざるの小說すら尙ほ女流の手に成りしにあらずと推するは、我が姉妹に對する世人の評價も亦た無禮なりと云ふべし。嗚呼昔しに於ては小式部の內侍、今に於ては先進の女作者、皆な相變はらざる運命に出で會ふもの哉。

○錦繪の嗜好

店頭に無厭慮にさらけ出す不道德の錦繪に付ては、吾人も屢ば切論したり、然るに去八日の每日新聞には左の如き快報を揭げたるを見るなり、

東都錦繪は寶暦の頃より維新後に至る迄發行の尤とも盛んなりしものは第一に俳優の似顔畫、次に名所繪圖なりしが近年に至りては世人の嗜好大に異なり稍や高尚に赴きしが如く宮中の宴會、觀兵式又は洋裝貴婦人の圖などが府下の捌口は勿論各地方よりの注文尤も多くして以前流行せし俳優の似顔繪などは年月を追て發行を減ずる由又海外輸出に向の宜きものは精密なる花鳥繪にして是等の版木も從來の櫻版は追々廢り重もに柘植の本口刻を用ゐるに至りしと當業者の話なりき

實に賀すべし。

○和歌將來の目的　　畠山健君

去九日皇典講習所に於て畠山健氏が右の題にて演說せられたる大意は、和歌は感情を主とするものなれば例へば「君が代」の歌を聞けば尊とき愛國の情を起さしむると云ふ如きに止まるものなり、左らば將來目的とする所ろは上古より定まりたる五七の言を破ぶるともあるべく、望む譯にはあらぬど枕詞の如き普通の人に解しにくきは用ひぬやうにし、自然三五六と云ふ如き句も作るにあり、又文明の新たなるに付て時々の流行の詞を用ゆるとも免かる可らず反つて面白味あり、地名物名漢語俗語等を交へても、一句躰を爲して成丈け正しき詞を用ゆる樣にさへすれば万葉以來の弊習を破り、趣味大に優美となるべし」と云ふにありき。

○衛生の極意　　長與專齋君

大日本婦人衛生會第三回の總會にて、長與專齋氏は「衛生の

極意は運動と清潔とに在」るとを説かれたり、其大意は去月全國の高年のものに養老の恩賜を下されしに、賜わりしものは金衣玉食の人にあらずして粗食敝衣の貧人にてありし、之れ貧しき人は能く運動して身躰の消化滋養が多くあるゆへなり、故に常に美食を食べねば成らぬと思ふよりも先づ運動を十分にするが宜し。次には清潔の事あるが、西洋人が日本人を評して日本人は世界中尤も潔僻ある人種なりと申すが、其の實眞の清潔を好むにあらで只だ儀式的の潔僻を存するものなり、例へば日本にて第一に清潔を主とする彼の茶人の如きも、柱天井より盆器に至る迄で眼に觸るゝ所ろ悉とく淸けれども、翻つて其の床の下を見れば實に驚ろくべき程に眞黒なり、惣て如此く何にても不潔ならぬものを無暗に磨き却つて衛生的に不潔なるものを搆はぬ風あり、下女が鍋釜の底を光らすれば褒美し乍ら臺所又は流し元を清くしても一向に褒めぬと云ふやうな矛盾したと多し、故に如此きとなく衛生上よりして清潔に注意すると第二に大切なり。先づ此の運動と清潔との二事を能く注意して實行せば、衛生の極意は既に達したるものなり」と云ふにありき。

○慘憺たる、パトナ事件

此頃英國の都、特に都の清徒義人をして絶驚せしめたるパトナ事件と云ふあり。印度パトナに於ける女宣教師アブラハム孃の許に土人の寡婦二人信徒となりて寄寓したるに、其一人のラチミンと云ふは今年十四歳のよし、然るに其母なるもの之をラダキッセンと云へる不徳なる營業を爲すものに賣渡したり、ラチミンは初めより之を知らず固より左る不徳の業を尤も嫌ふものありしが、特に道を信じてよりは斯る事を聞くだも伺ほ穢らわしとて遂にアブラハム孃の許に逃れ來りしなり、故に其母とラダキッセンとは强て之を取返さんとするに、アブラハム孃は印度の法律によりて之を差押へ渡さゞりし所ろ、法廷に訴訟の上へ不思儀にも負と成り、彼可憐なる乙女は號泣し噛騷ぐ中に奪ひ去られたり、之に付ては彼のダイヤー氏、其他トムプソン氏、グレゴリー氏等挺身して盡力したるが法廷にて尤も奇怪なる判決を爲し遂に如此く成りぬ。左ればダイヤー氏は之を本國のビクトリア女王に越訴し、且天下の義人に訴たへ、英國の道德論者騷然たり、必らずや近く其の明らかなる裁決あるべしと思へば其上にて此事件に盡力したる人々の勇ましき義行を記るすべし。只だ尤も悲しきはラチミンが身の上の事なり。（以上の記事は精しくセンチネル本年二月發行の分に見へたり）

○不許治郎爲市長

本號叢話の第一項、中島女史論文の末にも見ゆる如く、彼の姦淫の罪ありと責められて英國の政治社界より退去せしめられたるヂルクは、近來又漸やくに頭角を露はし、再たび政界に出でゝ、倫敦の市長と爲らんとしつるに、社會淸德 會の婦人一千餘名は連署して之に反對し、遂に其の議を全破したり。抑そもヂルク氏の罪に付ては世上に種々の議論ありて或は之れ反對黨の猾策に陷いりしなりと辨ずる者もありと云ども、彼が公明なる禮儀を破りてあるまじき閨閫の境迄でに入り込みしとは明白也(左ればこそ反證の不充分なるならん)、次に何に致せ現今は彼れ社會に退けられて未だ其の潔白の據證を十分にすると能はざるもの也、此の二つの事情あらん限りは假令ひ其の智才の少さか用ゆべきありとも之を以て決して社會の公德を無みせしむ可らず、故に淸德會々員が全擧して之を退けたるは實に欣賀すべきとと云ふべき也。吾人嘗て某の大演説會に傍聽しつるに、著名の某々等數名連りに彼撰擧人に付ての注意を演説し「諸君は宜しく聰慧なる利口ある學力ある議員を撰ぶべし」と云へり、而して數人皆な同音にして未だ一人だも其「道德」何如の事に論及せしものなし、嗚呼政治社會に道德の要素の勢ほひ强よくならん日迄で、吾黨は決して今の社會に滿足する能はず。

○中山慶子　從二位中山慶子は去る五日特旨を以て正二位に叙せられたり。

○婦人慈善會　にては此程鹿鳴館に於て正副會長の撰擧會を開かれしに會長にへ高崎夫人副會長にへ澁澤夫人當撰されたる由。

○產婆夜學校　神田接樂町の醫士水原慚氏は產婆夜學校を設立するの計畫ある由にて目下出願中なりと云ふ。

○產婆會　去月廿八日築地本願寺に於て東京產婆會月次甲會を開きしが出席會員ハ二百三十八人にして講師ハ濱田玄達、相磯慥兩醫學士なりし由。

○淨土婦人教會　下谷金杉上町の萬德寺教會内へ淨土婦人教會なるものを新設し每月一回づゝ婦人に必要なる法話を爲し三月七月の兩度大會を開き有識の師を招き法話を聽聞するとに定め望の者へ何人にても入會せしむると云ふ。

○救女教育授業學校　加藤とし子女史其他有志者の盡力にて題名の如き主旨にて學校を設けんさて方今專ぱら盡力中なり精しくは次號に記るすとを得べし。

○伏見婦人慈善會　昨年十二月伏見倶樂部にて本會設立の問題起り本年二月十八日始めて集會評決の議に決し同月末より會の主旨書を配りて目下會員募集中の由ゝ之に付き發起人と爲られたるは郡長荒井公木氏。警察署長竹中節氏。土着の名望者村上市太郎、安本利七、飯田勝兵衛、築山三郎兵衛の四氏、僧侶阿滿得聞、金松空賢、德山鐵造、菅瑞隆、伊東日清、上木海正、吉川清林、大谷逆川の六氏。教員青山正義、松尾佳明の二氏。醫師大橋辰島田彌一郎の二氏なるよし。

○女學校の設立　滋賀縣私立教育會に於て設立する所の私立女學校は愈よ同縣下大津[illegible]町華揩寺に設くるとに決したりさ云ふ。

○赤十字社員の增加　赤十字社京都支部は既に支部長副部長、等も定まりたるを以て追々入社するものも多く去る四日の調査よて正社員二百七十七名賛助社員七十三名ありしと云ふ。

外報

(此欄内自由に轉載を許す)

○印度公會の議決　印度の公會は左の如く議決したり、云く當公會は印度に於ける婚姻に關するの法律及制度を全廢せしめんさて英國にて爲されたる種々の盡力に同感同情を有す故に當公會は之を謝するの旨さ及び此の尤も賞むべき目的を遂する爲に出來べき丈けの助力を爲すべしとの旨を記錄に掲載すべし。

○米國女醫公會　米國ワシントン府に此頃合衆國女醫公會(National Association of Medical Woman for U. S.)と云へるものを新設したり、種々の研究條目ある中にも婚姻の事母たる心得の事男女の關係の事等を主として研究する由。

○不德文書案　醫術上の廣告文に對しては些少不德に涉るやうの事ありても不得

此政府にて寬待したるところ追々ま烈しき不德に流るゝの弊あるより外國の清徒は大ひに之を慨歎し種々其の防止に盡力するをなるが、英國にてはメース（Earl of Meath）伯が近日に不德文書案（Indecent Literature Bill）と云へるを上院に呈出し主として右の弊害を除かんとに盡力せらるべしと云ふ。

○不德文書類取押へ　英國マンチエスターにて或る本屋が佛蘭西の小說を拔萃したるものを密かに賣捌きし秘密巡査之を發見し其の一千八百部斗りあるを取押へたり。

○魯士亞モスコウ梅毒檢査　モスコウ府よりの來報にも此頃より同府にて女子の梅毒檢査を執行するとを中止せりと。

○劇場子供　英國ロンドンなどの劇場にて子供特に女の子供を用ひて種々の下役に使ふとあり倫敦丈けにても一千余名ありと云へり、然るに此の子供は衛生上教育上道德上ともに皆な追々と墜落する斗りなれば之を救助するの方を設くべしとは英國弊救同衆の專ら主張する所ろなるが、去年末倫敦學務委員の撰擧ありし時先づ同衆より右委員たらんとする候補者に書を送り諸君が愈よ委員と爲りたる后ち如此き子供を救助するの法を施行し劇場を臨ん規則の中に取締りて子供を徒らに雇使せしめざる樣に取計らわるべきや否や預じめ其意見を伺がひたしと通告したるに候補者五十五名の答への中ち二名丈けは不同意又は不答なりしが他は悉とく同意贊成の旨を申來れり、左ればいよ／＼去年末に撰定せられたる同委員の在職中には此の一事ま對して多少の改良法施行せらるゝなるべしと待つもの也。

小供談

○幸福を求むる種々ある事（其二）

今まで何も云はざりし蛇はヌラ／＼と首を出し兩君の說は抑く枝葉の論なり余は困難の原因を決して飢渴と愛情には歸せざるあり大凡世の困難といふものは皆性質の惡しきによる若し吾蛇が滿足して蛇と爭はず蛇を恨まず蛇を嫉まず世を渡らば何事も吾蛇に善からざるはあらずかし然るに惡性吾蛇を驅りて怒氣を起させ恨怨を結ばせ見るものごとに怒りを起し聞くこと每に恨をかけ怒氣と怨恨の外はなく動もすれば噛付かんとす是く他を憫む心もなく他蛇に噛付くのみならず父にも母にも噛付きて終の果には自分に噛付き怒氣を以て終るに至る之に由て是を觀れば困難は皆惡き性質より來るものなり。

鹿殿はいまだ意見を吐露せざりしが此時に首を擧げ余が考へは然るにあらず困難は唯畏懼の念より生じ來るものなり若し畏懼なくして世にあらんか困難は更にあらざるべし余輩の脚は健全なり余輩の角は小さき動物を防禦すべく又でかい物に出會ひたらば一目散に遁て見よ追付くものはあらずかし然し畏懼の念は余輩を去らず若し森の中の樹が鳴るか枝が一本も折れて見よ胸騷ぎをして遁る樣は弦を離れて飛ぶ矢の如く兎が飛んでも鳥が立つても枝が落ちても畏懼の念があればこそ右も左も敵の如く唯びく／＼と彼方此方を遁回り犬を避け獵人を恐れつゝいつか敵地に追込まれて周章て遁るに道を擇まず絕壁に轉げ落ち角を折り脚を挫き手足縮めて眠る時も片目を開きて用心しおち／＼と休むこともなし實に困難は畏懼の念より來るぞかし。

其時隱遁者は大凡世の中にありとある困難の源は飢渴にあらず愛にあらず又惡き性質のみにもあらず其困難は自己の心によるものなり心こそ飢渴、愛情、惡き性質又畏懼の念を生ずるものなれ」と語りきかせたりといふ。（完）

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

脂肪と無色液との別

茲に注意し置きたきとあり、そは餘の儀にあらず、脂肪の多き人は多くは思想鋭敏ならず、又擧動も至ッて遲鈍なるが、無色液質の人に至ッては左程に思想擧動等遲鈍ならずと云ふとなり、故に彼の支那人和蘭人の如き無色液質の人民は、却て事を爲す力に富めり、脂肪は通例人の凡ての能力を不活潑にすれども、無色液は然らず、若し過度ならざれば却て活潑ならしむるものなり、

頭大質の性は顏色は別に著しく他の性の人と異なりたる所なし、或は艶なるあり、或は淺黑きあり、此性に特有なる點を列擧すれば、先づ頭腦は他の性の人に比較すれば大にして、且つ四角形をなし、後腦は小にして收縮し、額は大にして「コメカミ」より上部は少しく擴がり、鼻は小にして通例前面にて二重に屈がり、唇は薄く屈折し易く、且下唇の方、前に出づ、頰は小にして少しく尖りたる樣なり、胸廓及び腹部も小さき方なり、筋骨も一躰に弱く見ゆ、無色液質の異常に發達したる人を見るときは其みにくき所より氣持わるく

不活質の性は活質の性より來る

感ずるものなれども、それに反して、此性の尤もよく發達したる人を見るときは、坐に憐愍の情を催すなり、此性は餘りよく發達したるときは誠に仕方なけれども、他の性と程よく調合されてある場合には、隨分世間に有名なる人物を作るに與ッて力あり、思ふに高等の開化には此性の人を生ずるは免る可らざるとと申すべきか、此性の人は概して思慮深く感情强し、然し其思慮其感情に激烈なる力ありとは申し難し、且つ此性の人は一種のとに狂氣となる病、則ち所謂モノマニアに罹り易し、此性の適例として引用すべき人物は瑞西國の學者ラインスタット。佛蘭西人ローレンツ、デ、メデシ。ブレイゼ、パスカル。故エドガー、エー、ポー等なり。

サテ茲まで講じ來りて、自然に讀者の心に起るべき一問題は、活質不活質の性は如何にして區別せらるゝに至りし也、活質も不活質も古昔より判然二個の性として存在せしものなるや否と云ふ事あり、博士パウエル氏の說に據るに、社會未だ幼稚

無色液質の發達する事情

にして人文尚ほ開けざる以前に在りては、人は皆活質の性にして不活質の性は開化の進歩と共に出で來りたるものなり、富（唯金錢のみならず凡て金錢にて購ふとの出來るものは富なり）と云ふ者は開化の一產物にして、人文の開け富の度高くなるに從ひ、古の如く唯山に獸を逐ひ川に漁業を事とせなくも、生活の出來る次第ゆゑ、自然と人々の活力を減ずる慴慣起り來るなり、始めは他の性の人にても唯不活潑の事務を執り、活力を減ぜし爲め不活質の性の人と變はりたる例あり、無色液質は酒類を用ゆる人に於て著しく發達す、故に獨乙人の如き非常に麥酒エール酒等を飲用する人民には此性の發達速なり、又た濕氣を多く含む空氣を呼吸するときは大に此性を發達せしむ、故に支那の海邊に住する人民、幷に和蘭人は此性發達せり、米國にてはルイジアナ、メキシコ等は空氣常に多量の濕氣を含むゆゑ、此性を發達せしむる傾きあり、博士パウエル氏が嘗てペンシルベニアにて邂逅せし婦人の如きは、非常に無色液質の發達したる人と見え、立ときは自分にて自分の身躰の重量を支ゆると能はざりし程なりしと云ふ」惟ふに無色液質の性は附たりの性と申して可なり、活質の性に或る原因より無色液の積りたるものあり故に此性は古來より存せしものにあらざると明白なり、又此性には別に定りたる顏色なきとも容易に說明し得べし、若し素と多血質の人なるに無色液質非常に多くなりて、遂に純粹の無色液質の性となりたるときは、原來多血質なりしゆゑ顏色は赤味を帶びてあるべし、歐羅巴の北部に至れば多血質の人多し、故に其地方に住する無色液質の人の顏色を察するに多くは艶にして赤味あり、又た其南部に住する人には膽汁質の人多し、故に其地方に至りて無色液質の人を見るに多く淺く黑味を帶ぶ、唯歐洲の北部の人のみに就て說を爲す學者は、無色液質の人は顏色赤味ありと云ひ、又た南部の人のみに接する生理學者は無色液質の人は皆必ず淺黑き顏色なりと云ふに至れり、然し此二說とも未だ其當を得たりと云ふ可からず、前に

頭大質の性の原因

述べし如く無色液質は活質より變化し來るものなるゆゑ顏色不定なり、多血質より來るときは赤味あり、膽汁質より來るときは淺黑きなり。

已に然らば頭大質の性は何の樣なる原因より來るものなるや、答へて曰く文明進步すれば世に富の分量餘計になる、富の量の增すのも文明の結果の中の一なるが、社會の進步と共に世間の事柄段々面倒になり、万事万端競爭にて、所謂適種生存とか自然淘汰とか優勝劣敗とか申すことの烈しく行はるゝに至ることゆゑ、昔しの樣に安閑無事に日を過すこと能はず、一身を立て一家族を支へて往くには隨分心配もし、心を使はねばならず、人の職業も坐して心を勞すること多くなり、又た金錢に不自由なきより放佚奢侈に日を送るものを多く生ず、斯くの如き色々の事情相合して頭大質の人を生ずるに至るなり、心思を勞すれば自から腦を大にして他の部分を疲弊せしむる傾きあり、故に此性の人は頭腦は大にして全身は極めて虛弱に見ゆ、多血質膽汁質或は右の二性を合せ有つ青年にして重き職に居り、或は繁劇なる事務に從事することにより頭大質になりし人を多く見るなり、

ミツキスド、テンペラメント 複性

活質不活質の婚姻に就き規則三條

無色液質の性　頭大質の性とを比較するに、異なる點のみを見れば大に異なれども、同じき點を擧ぐれば甚だ相似たり、先づ兩性とも活力の不足なることと又一定の顏色なきこととは其同じき所也。

是よりは以上列擧したる四性の混じたるもの則ち複性のことを論ぜんと思ふなれども其前に純粹の活質不活質の人の伉儷を撰むときの注意二三を示し置くべし

第一則。男女共に不活質のものは婚姻すべからず悉しく申さば無色液質の人は同性の人と婚ず可らず、頭大質の人は決して同性の人と夫妻たる可らず、此規則を破りたる人は婚姻の當時は兎も角、數年の間には相方の間に不滿の念を生じ、遂には更によく已れと形躰上適して居る人と交らんことを求むるに至るべし、且つ其間に生れたる小兒は誕生後直に死するとか、或は幼稚のときとか、又は壯年にありかけて世を去ること多し、純然たる不活

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

質同志の人が婚姻したる場合には此禍は殆んど免れ難き如し、然し不活質の人自身が必らずしも夭死するとか、始終病氣だとか、或は長命せぬものありと申すにはあらず、唯其間に生れたる子は父母より充分活力を受くる能はずと申すなり。

第二則。活質の性の内にても、膽汁質と多血質との婚姻は尙ほ恕すべし、然し膽汁質か或は多血質の人が不活質の多分をもつ人と婚せし時の如く甘くは參らぬものなり、多血質と多血質若くは膽汁質と膽汁質とは決して兩立し難し、此規則を破りて婚姻しける夫婦は、早晩互の間に不和を起し、其生兒は神經質或は熱病性の病氣に罹り易く、又た通例壽命も餘り長きと能はず、若し右の如き婚姻にして夫か妻か孰れかゞ幾分か不活質の性を有つときは宜しけれども双方とも更に不活質の痕迹だもなしと申す場合には其子は過度に父母の質を受けん、若し又た父も母も共に烈しき多血質の人なるか若くは膽汁質の人なるときは其子は神經質にして狂氣になり易きを免れず、

複性と云ふ事

多血膽計質

第三則。若し多血質の人ならば宜しく三分の一不活質中の孰れかを有つものと婚すべし、然らば丁度平均して膽汁質位とならん、膽汁質の人は宜しく少なくとも三分の一不活質の何れかを有つ人と婚すべし、丁度均合は多血質とならん、無色液質の人は宜しく活質の性の内孰れかを二分一ほど有つ人と婚すべし、若し頭大質の人ならば活質の内の孰れか或は双方を二分の一有つ人と婚すべし、以上の三則に據れば先づ一人にて餘り多くの性を混じて有たぬ場合には伉儷を撰むとき形躰上の判定にはさして困むとあるまじ、然し若し一人にて多くの性を混有する場合には其人には何如なる性が尤も多く發達して居るやを判定するに困むとあり、博士パウエル氏は更に進んで右の複性を尤も明細に記述したり、若し次に述ぶる所によつてよく其人に接して照し合さば或は甚しき撰擇の誤謬を免れん。

第三　二性の複合

其一。、、、、、、、、多血質と膽計質の複性。此性の特質と申す

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

衛生法は嚴法なり

始終丈夫で居ることが出來ますが、出來ることなら誰れでも病氣になる人はありますまい、ドーシテ何時でも丈夫で居ることが出來ますものか、たまには病氣にもならなければなりません、それゆゑ私どもは唯辛抱して早く全快する樣にしなければいけません、

左樣、その通り、然し世間には衛生法をよく會得して、それをよく守つて居つたら無病で長生きの出來さふに見える人が、度々病氣に罹り時々は生命をなくす例も隨分澤山あり、

サテ衛生法と申すは造物主が制定し給ふたるものにて、凡て生命を有ち呼吸して居るものは之を守りて始めて生活してゆくとの出來る規則なり、故に此規則を守れば健康であることを得、若しも怠つて守らなければ直に不健康病氣と申す嚴罰に處せらるべし、此衛生法は啻道理力を持つ人間にのみならず、禽獸界にも行はるゝ法律なり、此法律の箇條の中で分り易いものは兒童にも分るべし、例へば生きとし生けるものは何か食せねばならぬと申すが如き、食するもの不足なれば段々と衰へ果つると申すが如き、又た餘り過分に食するときは腹痛を覺え病氣を引き出すと申すが如し、それゆえ造物主が極めてある分量より少なくか、又は多く食べるときは必ず身體に其應報を受くべし、此衛生法と云ふ法律は誠に公平で一點の私曲のない法律ゆへ、老幼貴賤の差別なく、犯したるものには立ちどころに嚴罰を當て行ふて少しも恕する所なし、

衛生法の條中容易からず

食物なければ人間は立ちゆき兼ぬると云ふとは誰でも承知にて、赤兒と雖ども之を知るものゝ如し、然し其外の少しく込み入りたることに至ると、中々その樣に分り易からず、それを知るにはいくらか考へをしなければならぬなり、何ふして學者がそれらの法律を發見したかと云ふに、昔しから衛生のことに注意した學者たちが色々と實驗を積んで、込み入つた事實を取り調べて規則を見だし、又た何か思い付いたとあれば實驗をして其當否を確かめ、遂に今日の如く智識を得るに至りしなり、是

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

は啻衛生法のとばかりでなく、かの六かしき哲學どか理學とか化學とか云ふ學問も、皆此方法に依つて今日の如く發達したるものなり。

斯樣に衛生の學問開けてより、昔しならば仕方がない唯死ぬのを待つばかりとあきらめた病氣も全快し從て許多の生命が救はるゝ樣になりたり、此後も人身の學問益開け、又た人が益衛生のとに注意する樣にならば尚多くの生命が助かる樣になるとならん。

或る所に一人の娘あり其指に甚しき苦痛を覺え、夜分眠むるとも叶はず其腕も使えぬと云ふ程の次第なり、或る友達は膏藥を張つたら宜しからんと、膏藥をはれども癒えず、此油藥をつくれは痛み去らんと油藥を塗りしかど少しも効驗なし、母は心配して或る名醫の許に伴れ徃きたり、醫者は娘に向ひてどんな風の痛なるかと、色々問ひ掛け指をよく見たる後これは針がはいつて居のなりとて。やがて外科道具を持ち來り、少しく指を切りたれば針の先き少しく見えたり、ぢきに引き抜きければ痛み頓に止みたり。

健康ならんと思はゞ先づ我身体のとを知るべし

見給へ、病苦を愈さんとするときは先つ其痛苦の依て起る原因を調ぶるを要す、原因さへ知れたる後は痛みを去ると至つて容易なり、此理にて吾人も先づ出來るたけ我身躰の事をよく知らなければならず、さればなぜ此れは健康によろしいとか、彼は身躰に害になるとかと云ふとが、判然分る樣になるべし。

先づ吾人の健康を保つになくてならぬもの三つあり、則ちよき空氣なり、よき水なり、よき食物なり。

咀嚼と云ふ事

第五食物のと(咀嚼のと)

上に述べし三つの大切なるものゝ中、先づ食物のとより說き始めん、空氣と食物と水は人間に取て三大必要品なれども、互に少しく異なる所あり、空氣や水は何時も大抵同じくして、異なる所は其品質にあり、汚穢物の混りたるは惡水にて飲む可らず、又鑛物を鎔解して含む水は鑛泉と申して病氣に効目あり、空氣もその通り清潔不清潔との差あれども其他に種類とては一もなし、然るに食物

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

食物の數實に多し

に至りては種類の數夥たゞしくして殆んど數ふ可らざる程あり。

日本でよく人の云ふ「御ぜんの爲めに働く」とか、西洋で「パンの爲めに働く」とか云ふのは、人間と申すものは食物の爲めに働くものであると云ふ意味あれども、食物は決して米やパンのみに限りたるものにあらず、其國々の風俗にて色々の種類あり、印度や日本の如きは米を以て重なる食物とし、肉類は其次なり、それは一つには寒國の人ほど肉食をしなくもよき故なり、北氷洋に接近する國々、例へばグリーンランドの土人は唯魚類を食す、日本でも邊鄙に行くときは或は麥ばかり或は粟ばかり食する所もあり、薩州の或る片田舍に往くと俗に云ふ薩摩芋を以て常食とする人もありと云ふ、通例開化の進むに從ひ食物の種類も增すものあり。

右の如く食物の種類は千差万別にして中々に數へ盡くせぬほどあれども、其目的は唯一つ、則ち吾人の身躰を養ふと云ふヿあり、然し食物が吾人の

食物變じて血となる

身躰の營養物にある迄には澤山の手續を經ねばならず、則ち消化と申す手續を經て血液となる、此血液は則ち吾人の生ける間吾人の身躰に新しきものを送りてそれを養ふてゆくものなり、而して其血は何より來るかと云ふに吾人の日々の食物の變化し來りたるものなり、

玆に申す迄もなきヿながら、吾人の食物は時としては肉。時としては魚時としては野菜果物と色々の差別あれども、吾人の血は何時でも同じ血なり、それゆゑ食べた物が血となる前には、其肉とか魚とか野菜とか云ふ別個のものが一ッとなり胃の中にて一種の混りたる液となる、そして消化機の働らきにて其液の中より身躰に營養になる部分と營養にならぬ部分とを分けて、いらぬ部分は別にそのために設けてある道によりて躰外に出して仕まい、營養にある部分は血となつて身躰の中に送らるゝなり、故に食物が口中に入りてより胃にて消化され血にある迄の手續を稱して消化とは申すなり、

消化とは何ぞ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

齒の用

右の手續の第一着は食物を口中にてよく噛み碎くと、則ち咀嚼と申すとあり、其爲め口は齒と申す天然の機械備はる齒には色々の種類ありて前に在るは食物を噛む爲めなれば平たき刃なり、横にあるは物を切る爲めに備えられ、奥あるは臼齒と申してかみ切りたる食物を上下よりはさんで碎く爲めに設けらる。

舌の用

然し御承知の如く齒は腮にしかとつき居るもの故自分で動くとは出來ず、始終腮と共に動くなり上腮は少しも動かず、動くは唯下腮のみなり、然し下腮とても口に入りたる食物を自分で齒の上に持ち往くと能はず、其職は舌之を司どる、舌は自由自在に動きて食物を丁度具合よく齒の間に運び、噛み完わりたる頃を見はからつて又た之を咽喉に送る、舌は人間の身躰の中で少さきものなるが又た尤も大切の機械なり、五感の一にて味感と申し食物の味を分けるとは全く此舌の司どる所なり、

唾の用

此他に舌の裏面及び其外に少さき腺と申す管ありて、常に唾を分泌す、此唾は口中をしめし、又た食物に混じて澱粉質の食物を砂糖質に變ずる力あり、唾は常に少しつゝ分泌し居れども食事の節殊に多く分泌さるゝあり。

食道

已に口中にて食物を充分かみ碎きたるときは舌はそれをまろめて塊となし、之を咽喉に送れば其處に食道と申す管ありて、食物は此管を通じて胃に下る。

氣管

サテ汝方は食物と同じく咽喉を下るものあるとを御承知ならん則ちあなた方の呼吸する空氣なり、此空氣は肺に往き食物は胃に下る、空氣を肺に送るには氣管と申す管あり、若し誤て食物が食道の方に往かずに氣管に下るときは呼吸が止まる恐あり、此危險を預防する爲め、氣管の咽喉に達せし所に一の戸あり此戸は小さい戸より成る、食物が咽喉を下るときは閉ぢて、氣管に落ちぬ樣にし、通り過ぐれは又た開く、ヒヨッとすると、氣管に食物が落ちんとするとがある、例令へば行儀のわるい小供が食物を一杯口にホーばりながら話しをするときは、せきをするとあり、此むせぶと云ふ

生徒募集廣告

定期試業畢る寄宿通學共入學を許す

三月一日

小石川柳町二十七番地
私立跡見女學校

同志社の寄附金

金一圓　牛込揚方町　金谷てう子
金一圓　麹町區永田町　龍居頼三妻
金一圓　大覗子内　鈴木貞子
金五十錢　林絹介
小計三圓五十錢
合計　金十九圓五錢也

土居輝次郎著

子供のそだてかた　全

目錄
第一章　總論
第二章　育方は父母親らすべし
第三章　身體の育方
第四章　智惠の育方
第五章　行の育方
第六章　就學の心得

定價　金三拾錢
郵税　金拾錢

この書は。子供の生れてより。小學校に入るまでの。育方を記したるものにて。世の親たる者が。子供を丈夫に育て上げ。智惠あるものに爲さんことを若者が數年の丹誠をもて。例を擧げ譬を引き。又實見に就きて深切丁寧に述べ。子供が成長の後に身の爲め世の爲めにならんやうに勉めたるなり。されば貴きあたりも。左なきも。父となり母となり給ふ人々は。常に愛讀し給ひて。著者が婆心を空しくせざらんやうに。文は至て平和なるも。傍假名を施し。給さへ名工にわつらへて。二十餘所にさし入れ。製本を美しくしたれば。又御進物。御土産にもよろしく。誠に他に比類なき珍らしき好本に付き。願はくは續々と御購讀を賜はらんことを。

日本橋區本町三丁目十七番地
金港堂

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

遞信省認可

追善發句募集廣告

今般當花傳山翁拾三回忌に相當仕因りて發句募集致候に付きては本會は五萬句を限り募集仕り内秀逸五百句を選出し秀逸は何れも景物を進呈し猶秀句は一々俳手の名を記しこれを掛額に相掲け金龍山淺草寺に奉納可仕候且三拾句以上御出句の方々には秀逸を美麗の一小冊に相綴り進呈致候間同好有志の諸彦は海山御投吟被下度偏に希望仕候

撰 夜雪庵宗匠 太白堂宗匠 **雨評**

花評 緒雪 三光外二拾客え美景呈上

題 四季亂題（壹句入花料金壹錢ッヽ）

四月廿五日堅く〆切五月廿五日開卷

當日淺草鷗遊館に於て兼題拜讀書留置候

景物天金貳拾圓○地金拾五圓○人金拾圓○以下二拾句報知新聞五ヶ月○三十句全三ヶ月○百拾七句全壹ヶ月○以下宗匠清書短冊二葉宛進呈仕候○秀句なる方々にも三拾句以上御出句の仁には總て秀逸集一冊宛を進呈可致候

但し別に一々御返章可致に付ては地方遠隔の諸彦は入花料に金貳錢を添え御送附可被下候

二十二年三月

東京淺草區西三筋町六拾三番地 **南無庵**

生徒募集

今般本科專科共通學及寄宿生チ許ス且學科ロハ和漢文英學習字詠歌經濟衛生理學數學育兒家政茶湯簿記博物闘畫和洋裁縫編物等ナリ志望ノ者ハ至急申込アルベシ

麴町區富士見町二丁目一番地 私立 **開知學舍女子部**

發兌					
三月○	二日	九日	十六日	廿三日	三十日
四月○	六日	十三日	二十日	廿七日	
五月○	四日	十一日	十八日	廿五日	
六月○	一日	八日	十五日	廿二日	廿九日

定價			
一册○六錢	郵稅○一錢	（但府内無郵稅）	
十册○五十八錢	郵稅○十錢	（同前）	
半年分	一圓四十三錢	府外は	一圓六十九錢
一年分	二圓六十錢	府外は	三圓十二錢

廣告

特別廣告は婦女に關する協會會合等の記錄を揭ぐるものにて一切無料とす但し紙面半頁分の廣告を揭載する者に雜誌十部の注文を要し以上半頁分毎に十部增の割合と定む

一行 一回（廿七字詰） 前金拾錢
同 二回以上 一割引
同 六回以上 二割引
十行以上一割引○二十行以上二割引○四十行以上三割引
但し不道德なる事物の廣告は謝絶す
物の廣告は無代價にて引受く女學に有益なる書籍は一部の寄贈を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町[illegible]々堂○同芝西久保櫻川町萬春堂○同神田區雉子町團々社○同神田區佐柄木町東海堂○同日本橋區新葭町長明堂○同京橋區木挽町壹丁目支店○同本郷區元町東京堂○同日本橋區[illegible]木町二丁目所明堂○同本郷四丁目日月堂○同本町六丁目太田光三堂○同日本橋區通三丁目○同京橋區[illegible]四丁目小西洞へ入○同三十間堀東京[illegible]○同[illegible]大坂備後町四丁目[illegible]○仙臺國分町伊勢安雜誌部○宮城縣[illegible]○石版[illegible]○大阪心齋橋[illegible]長尾書肆○大阪[illegible]○上總[illegible]○上州高崎田町[illegible]○土佐國高知本町三丁目[illegible]○熊本文明堂○相州小田原[illegible]

明治二十二年三月七日印刷
明治二十二年三月九日出版

發行所 東京京橋區日吉町八番地 **女學雜誌社**

編輯兼發行者 東京京橋區日吉町八番地寄留 **嚴本善治**

印刷者 東京芝區源助町十一番地寄留 **森田豐**

WOMAN'S MAGAZINE.
"JOGAKU ZASSHI."

Price 6 sen. By post *yen* 1.69 six months, *yen* 3.12 per annum, in advance.
Edited and Published by Y. H. Iwamoto, at The Jogaku Zasshi Office, No. 8 Hiyoshichō, Shinbashi, Tôkyô, Japan.